

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども療育教室さんぽ		
○保護者評価実施期間	2026年6月2日 ～ 2026年6月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39 (回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2026年6月2日 ～ 2026年6月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年7月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・プログラム内容・支援の統一性、支援の質の向上	・日々の支援の振り返りや、会議、定期的なプログラムの確認、周知、個別支援計画を確認していきながら支援の統一性を持って児童一人一人に合わせた支援を提供できるよう努めています。また必要に応じて関係機関との関わりを持ちながら児童一人一人に合わせた療育を行っていけるよう意識しています。研修や勉強会なども事業所内だけでなく、職員一人一人が外部研修を受ける機会を設けており事業所にでの支援の質やチーム、職員が向上していけるよう取り組んでいます。	引き続き、職員一人一人が日々の振り返りや研修、個別支援計画やプログラムの内容の確認をしていながら児童の最善の利益を日々考え、提供させていただきます。事業所内に限らず外部研修を受ける機会を今後とも継続して参ります。
2	・職場改善	・従業員一人一人が働いている中で、充実感やキャリアアップができるようOJTシートやキャリアアップシートに取り組んでいます。合わせて職員同士が日々の会話や場面の中で困りごとや相談事などをしながらそれぞれにOJT担当を付け、日々職場改善に努めています。会議も毎月2回以上行い、職員同士で支援のことや職場での困りごとなども確認合っています。また年に二回、職員同士が賞める合う会なども取り入れ、みんなが働きやすいチーム作りをしています。	・今後も従業員が働きやすく、従業員が安定して長期的に働いていける職場環境を追及していきます。またチームリーダーや年数、役職に応じてチーム研修やOJT研修、ハラスメント研修も積極的に力を入れていきます。
3	・安心感や楽しみな気持ちで通所、利用をしていただく	・お子さま一人一人が楽しく安全に通えるよう、職員同士が話し合い、検討をしながら職員全体の意識や、職員、子ども同士の信頼関係が築いていけるようにしています。また日々の送迎の際や、日々の連絡帳、保護者様との連絡、面談を通して事業所でのフィードバックや相談、共通認識がとれるように意識して取り組んでいます。	・引き続き、チームとして職員としての見を深めていながら、児童一人一人に寄り添った支援、療育を日々深めていけるよう引き続き、事業所全体での共通認識や、児童が安心感や楽しみな気持ちを持って引き続き通所していけるよう引き続き取り組んでいければと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家族支援プログラム（ペアレントトレーニング）や家族等参加できる研修会や情報提供の機会の実施	・日々の支援体制の整備を優先してきたことから、家族支援プログラムや家族向け研修会の実施には至らなかった。	・保護者支援の機会を充実させるため、実施内容や運営方法を整理し、実現可能なかたちで計画導入を進めていきたい。
2	・保護者会の実施	・保護者会を実施していない	・保護者の希望に応じて、保護者同士の関わりや相談の場を提供していけるように努めます。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会の未提供。	・地域のイベントや、放課後児童クラブとの交流の時間の確保	・下校後の時間での放課後児童クラブとの交流の時間確保や、お預かり時間での地域イベントへの参加の難しさがある。